

1. シラバス

授業科目名	生活研究論	単位数	2
開講年次	3年	学期	前期
担当教員	大本久美子		
科目分類	専門科目 (教科に関する科目)		
選択/必修	必修	授業形態	講義
授業の目標	家庭科には、背景となる学問があり、「生活」を科学的・社会的に捉える視点が必要であることを知る。さらに様々なものの考え方や価値観にふれ、ハウツーの知識ではなく自分の考えを深めるための知識を吸収し、自分なりの「家政」「家政学」のイメージ・定義を持つことができる。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家政学とは? テキストの分担決め 2. 「家政学とはどういう学問か」 3. 「日本の家政学のあゆみ」 4. 「総合科学としての家政学」 5. 「世界の家政学: ドイツ・北欧」 6. 「世界の家政学: アメリカ・アジア」 7. 「家庭・家政を考える」 8. これからの家政学とは? 総括・講義・資料配布 9. (グループ討議) 家政学の問題点と今後の改善・発展 10. 発表 11. 「豊かさの条件」配布 「個人課題: 家政学とは?」に関する説明 12. 「生活支援のための「家政学」」 13. 個人課題『家政学のイメージを図と言葉で表す』作成 14. 個人課題『家政学のイメージを図と言葉で表す』の発表 15. 総括・小テスト「家政学とは?」・「豊かさの条件」の感想 		
テキスト	富田守・松岡明子編 (2001) 『家政学原論 生活総合科学へのアプローチ』 朝倉書店		
参考文献	亀高京子監修『若手研究者が読む「家政学原論」2006』家政教育社(2006) 暉峻淑子『豊かさの条件』岩波書店 (2003) S. コウチ 牧野カツコ訳『スキルズフォアライフ』(2002) 家政教育社 ※その他の参考文献については、授業中に適宜紹介します。		
評価方法・基準	授業時の小テスト、個人課題などから総合的に判定する。		

2. 授業の特徴や授業を行うにあたっての工夫

●3 回生前期に開講される本学の「生活研究論」は、2 年間学んだ専門科目の総まとめの意味と家庭科教育との関連性を意識させることをねらいとしている。2000 年前後に、「生活」をより広い概念で扱うことを目的に「家政学原論」から「生活研究論」へと、科目名称が変更された。2010 年度は、①家庭科には、背景となる学問があることを知り、「生活」を科学的・社会的に捉える視点を育成すること ②様々なものの考え方や価値観にふれ、ハウツーの知識ではなく、自分の考えを深めるために必要な、より多くの幅広い多様な知識を吸収すること ③自分なりの「家政」「家政学」のイメージや定義を持つことができる こと の 3 点を授業目標とした。

●『家政学原論 生活総合科学へのアプローチ¹⁾』の 8 つの内容を、各 2 名ずつ計 16 名の受講者全員が分担し、各自担当の内容をわかりやすくプレゼン発表する作業から、家政学についてのより多くの知識を得ることと、レジュメ作成・プレゼン能力の向上を目指した。次にグループ活動に入り、家政学の問題点や今後の発展性について討議した。これらの一連の作業、学習は、「個人課題：家政学とは？」に入る前の準備、つまり、内容の整理や他者の多様な意見を聞き、自分の考えを深めることを目的としている。さらに『豊かさの条件』²⁾を教材として各自 1 冊ずつ配布し、感想を書かせた。この本の中には、家政学という言葉は出てこないが、「ともに助け合う生活」や「福祉と平和の実現」等についてわかりやすく書かれているため、家政学の内容の理解を助けると考えたからである。

●半期の授業で触れた内容のうち、①家政学の研究対象②家政とは③生活とは④家政学の社会的貢献・これからの家政学 の 4 つの中から 1 つを選び、「自分が抱くイメージを絵で示し、絵の内容を 200 字程度で説明する」というテーマでそれぞれの思いや考えを発表させた。紙面の都合で絵を掲載できないのが残念であるが、16 種類の独創的な絵や考えが紹介され、人それぞれのとらえ方や表現があることを理解したようである。

以下は、受講生が最後の時間に自分の言葉で書いた家政学の定義と授業全体の感想の抜粋である。最初の授業で書いた「家政学とは」の内容とは全く異なり、受講生全員がそれぞれの学びが深まったことを実感していた。

「家政学とは？」★生き方の違いによる様々な人の価値観を認め合いながら、衣・食・住などの知識を生かしつつ、自分の生活の質を豊かにし、幅を広げ、将来自分がどのような生活がしたいか夢が持てるようにする学問 ★家政学とは私たちの生活を様々な角度から研究し、人の生活をより幸福にするための実践的学問

授業の感想★難しそうな授業だと思っていたけれど、噛み砕いて少しずつ学んでいけばわかりやすくなるものだと思った。★授業全てが面白かった。家政学の魅力に改めて気づくことができ、自分が家政教育を学んでいることに誇りを持つことができた。★自分でレジュメを作り、発表したり、聞いたりというもすごく力になったけれど、家政学について班に分かれてみなが話し、意見を出し合えたことがすごくためになった。★テキストを読んだだけではなんとなくわかっているつもりになっていたが、実際に絵を書いて自分の考えを表そうと思うと自分の考えがまとまっていなかったのですから深く考えるいい機会になった。

1) 富田守・松岡明子編 (2001)『家政学原論 生活総合科学へのアプローチ』朝倉書店

2) 暉峻淑子 (2003)『豊かさの条件』岩波新書